

# 3 生活環境

～環境にやさしい省資源・循環型社会を実現しているまち

## <基本計画の目標>

住環境に対する意識の向上を図るとともに、公害のない清潔で快適なまちづくりをめざします。  
 持続可能な社会をつくるため、市民・事業者・滞在者・行政が役割分担し連携して、地球温暖化対策などの環境保全に取り組みます。  
 従来の大量生産、大量消費、大量廃棄という一方通行型の社会から、最適生産、最適消費、最少廃棄といった環境負荷の少ないまちづくりをめざします。  
 市民、滞在者、事業者、市が協働して、廃棄物の発生を抑制し、発生した廃棄物はできる限り再使用または再生利用を推進し、循環型社会の形成をめざします。  
 廃棄物の焼却量や埋め立てによる最終処分量を限りなくゼロに近づけるゼロ・ウェイスト社会の実現を将来目標とし、減量化・資源化に取り組みます。  
 市民の利便性を最優先に考え、市民負担の軽減を図りつつ、廃棄物を分別排出しやすい環境を整備します。特に、高齢者や子育て世代などの負担の軽減を図ります。  
 散乱ごみや落書き防止への取り組みは、市民等の連携協力や協働での取り組みが不可欠なため、今後も協働体制の維持、充実を図ります。

## <目標指標>

目標指標	目標指標の定義	当初値	H18	H19	H20	H21	H22年度 目標値	H27年度 目標値
温室効果ガス排出量(一)	市域における1年間の二酸化炭素排出量	656,957 t-CO2	578,312 t-CO2	567,672 t-CO2	615,688 t-CO2	<b>480,106</b> t-CO2	512,795 t-CO2	国の目標値に 合わせて設定
ごみ焼却量(一)	名越クリーンセンター及び今泉クリーンセンターで焼却した1年間のごみの総量	42,002 t	41,428 t	41,533 t	39,007 t	<b>40,173</b> t	39,700 t	30,900 t
まち美化活動参加率(十)	全自治町内会のうち、まち美化クリーンデーに参加している団体の割合	67 %	65 %	63 %	61 %	<b>59</b> %	80 %	100 %
環境保全活動実践率(十)	日常生活の中で、環境保全のために具体的な行動を行っている市民の割合	84.9 %	87.8 %	88.8 %	89.3 %	<b>86.8</b> %	87 %	90 %
ごみの発生抑制実践率(十)	日常生活の中でごみの発生抑制に取り組んでいる市民の割合	76.1 %	77 %	81.7 %	82 %	<b>81.2</b> %	81 %	86 %
散乱ごみ減少率(十)	散乱ごみが減少し、まちがきれいになったと感じる市民の割合	52.6 %	52.5 %	55.2 %	63.5 %	<b>65.9</b> %	58 %	63 %
市民満足度	サブタイトルにあるまちの実現状況について、市民が実感している割合	75 %	75.7 %	78.4 %	79.9 %	<b>79.1</b> %	80 %	85 %

## <これまでの取組の評価～進捗と課題>

評価：◎80%以上の成果、○50%以上の成果、△30%以上の成果、×30%以下の成果

### ・環境部

#### <昨年度からの課題>

・ごみ焼却量の大幅な削減を目指し、さらなる温室効果ガスの排出量を削減するため、ごみ発生抑制の啓発事業をより一層押し進めます。また、循環型社会及び低炭素社会に寄与しうる、ごみ処理施設の整備を推進します。

#### <進捗>

・太陽光発電設備設置への補助、公用車への電気自動車の導入等新規施策の展開や環境教育、「かまくらエコアクション21」への取り組みから、市域での温室効果ガスの削減を推進しました。  
 ・ごみ収集体制において、ふれあい収集制度を拡充し高齢者世帯の排出負担の軽減を図りました。また、収集業務の民間委託化を進めました。  
 ・市民へのごみ発生抑制の啓発活動を進めるとともに、5年連続でリサイクル率日本一を達成することができました。  
 ・環境に配慮した安定したごみ処理体制を確立するために、「山崎浄化センターバイオマスエネルギー回収施設」の基本構想基本計画を作成するとともに、名越クリーンセンターの延命化を決定しました。  
 ・まち美化クリーンデー等の市民参加や散乱ごみ・落書き防止について市民団体との協働事業の取り組みを開始、路上喫煙防止に関する条例の施行等により、散乱ごみは減少してきています。

#### <課題>

・平成22年度の温室効果ガス排出量は、廃棄部門、家庭部門において削減目標を達成していないため、環境教育の実施や3Rの推進など、より一層温室効果ガス削減に向けた施策の展開が必要です。  
 ・減量化・資源化を推進し、かつ安定的なごみ処理を行うため、バイオマスエネルギー回収施設の整備と焼却施設の延命化措置について、スケジュールに遅滞が生じないよう事業の進捗に努める必要があります。

担当部の評価



## <今後の展開(取組方針)>

### ・環境部

・環境教育の実施や「かまくらエコアクション21」の普及などの施策を継続して進めるとともに、新エネルギー導入促進を図るため、太陽光発電設備設置に対する補助や、公用車として導入した電気自動車の活用と急速充電器の無料開放を行い、市域の温室効果ガス排出量のさらなる削減をめざします。

・今後も市民への3R（リデュース・リユース・リサイクル）推進のための啓発事業を継続して実施するとともに、事業所に対して事業系一般廃棄物の分別徹底を働きかけ、さらなる排出量の抑制、焼却量の減少をめざします。

・市民参加・市民団体等との連携・協働事業の取り組みを進め、市民と一体となって、ごみの散乱のない清潔で美しいまちづくりに取り組みます。

・本市の廃棄物処理の基本理念である「ゼロウェイストかまくら」を実現するために、低炭素社会、資源循環型社会の形成、推進に寄与し、かつ安定的なごみ処理体制の構築に取り組みます。

## 鎌倉市民評価委員会の評価

～評価委員は、この分野の取組について次のように評価しています。



### 評価できるところ

- ・5年連続でリサイクル率全国1位を達成したことは行政と市民の協働によるものであり評価できる。回覧板を通じて「環境ニュース」を配布するなど市民へ3Rを浸透させる取り組みをしている。
- ・ゴミの散乱などは減少しており、評価できると考える。また、家庭からのごみを減らす努力も少しずつではあるがその数値を伸ばし、今後の期待できる。
- ・電気自動車導入などの環境に配慮した先進的な取り組みも評価でき、今後のさらなる推進を期待する。バイオマス・リサイクルの検討など新たな取り組みを行っている。
- ・市内美化のために「クリーンアップかまくら」や落書き対策など、市民の力を活用した各種取り組みを行っている。



### 課題・提言

- ・鎌倉市の一人当たりのごみの排出量は県下ワースト5であり、発生抑制に対する対策に力を入れる必要がある。また、低炭素社会実現を目標としているが、背景にある問題意識をより鮮明に打ち出していく必要があるのではないかと。
- ・生ごみ資源化施設の整備は、ゼロウェイストの理念と費用面を考慮しながら慎重に進めるべきである。
- ・ごみ袋の有料化(その分税金は少なく)や戸別収集、ディスプレイのさらなる普及(今泉の処理槽利用や公共施設)、生ごみの堆肥化、生ごみ施設の増加、企業のさらなる分別の徹底、市民協働の3Rの推進が望まれる。
- ・ゴミ袋有料化はさらに家計の負担になるので、経費削減をまず実行して欲しい。
- ・ごみのリサイクルを行うために各家庭において行われているプラスチック容器やびん・かんの洗浄のために使用されている光熱水量は大きく増加している。市役所としての削減分との比較等を行い、より効率的な削減システム構築を期待する。